

# 株式会社ソフトフロント

## 2015年3月期 通期決算説明資料

---

2015年5月18日

この資料に記載されている、当社グループの現在の計画、見通し、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しです。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績、出来事・状況に関する説明における「期待」、「計画」、「見込み」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものには限定されません。口頭または書面による見通し情報は、広く一般に開示されるほかの媒体にも含まれる可能性があります。これらの情報は、現在入手可能な情報から得られた当社の判断にもとづいています。実際の業績は、様々なリスクや不確実な見通しの上に全面的に依拠することはお控えいただけますようお願いいたします。

# 2015年3月期 通期業績の概要

---

執行役員 財務担当 五十嵐達哉

## 業績の概要

(単位：百万円)

	2015年3月期 通期（連結）	ご参考 2014年3月期 通期実績（非連結）
売上高	397	597
営業損益	△389	△207
経常損益	△388	△213
当期純損益	△412	△247

中期経営計画2年目の中、国内開発拠点の統合、札幌から東京への本社移転、ベトナム現地法人強化、様々な新規パートナーとの提携などの施策が進展。成果が現れるまでには一定の時間を要している状況。

# 「売上高」の状況

(単位：百万円)

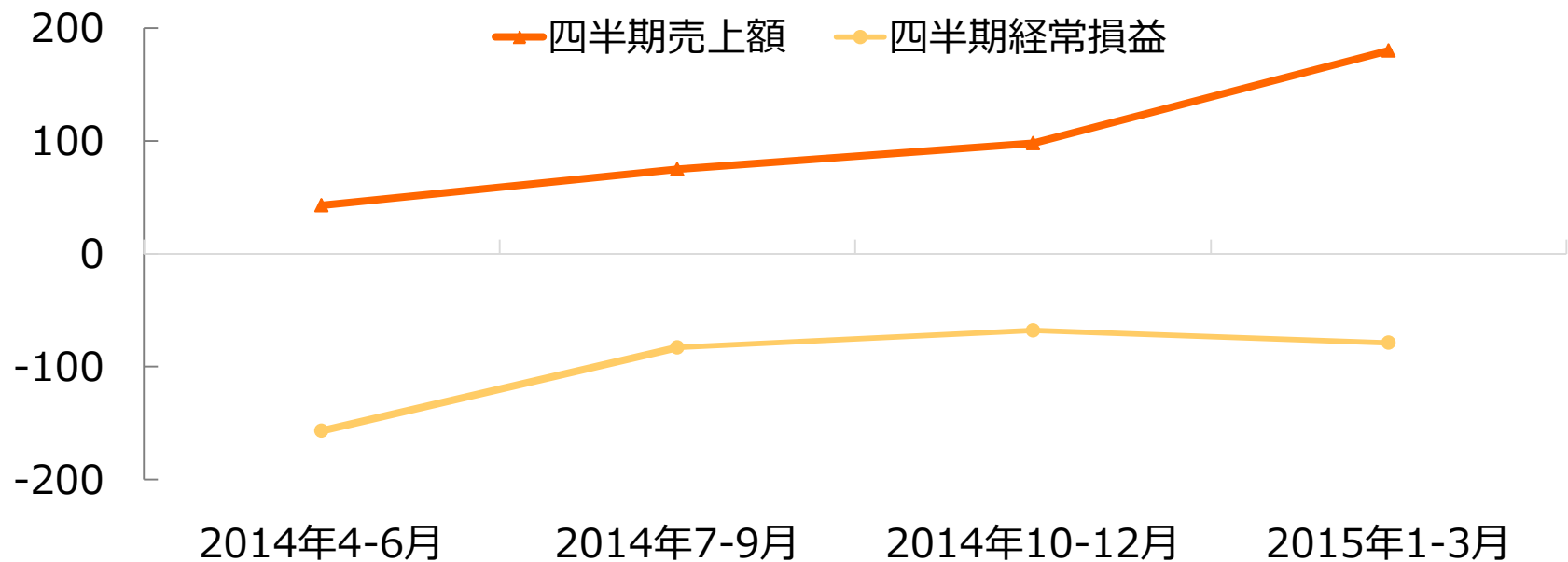
	2015年3月期 通期（連結）	ご参考 2014年3月期 通期実績（非連結）
売上高	397	597
ソフトウェア販売	190	252
受託開発	202	328
その他	5	16

上半期において、国内拠点統合及びその後の体制整備に時間を要したことに伴い、新規顧客獲得活動及び既存顧客への新規提案活動が十分にできなかったことの影響などから、売上高が伸び悩む。下期以降は回復傾向にあるも上半期の減少をカバーできず。

# 四半期別業績推移

(単位：百万円)

	2014年4－6月	2014年7－9月	2014年10－12月	2015年1－3月
四半期売上額	<b>43</b>	<b>75</b>	<b>98</b>	<b>180</b>
四半期経常損益	△ <b>157</b>	△ <b>83</b>	△ <b>68</b>	△ <b>79</b>



## 2015年3月期通期：キャッシュ・フローの概要

(単位：百万円)

営業活動によるキャッシュ・フロー	△274
税金等調整前当期純損益	△410
減価償却費	119
売上債権の増減額（△増加）	23
仕入債務の増減額（△減少）	△7
その他	3
投資活動によるキャッシュ・フロー	△106
財務活動によるキャッシュ・フロー	342
現金及び現金同等物に係る換算差額	2
現金及び現金同等物の増減額（△減少）	△36
現金及び現金同等物の期首残高	499
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	18
現金及び現金同等物の期末残高	480

# 2016年3月期 全社方針

---

代表取締役社長 阪口克彦

## 2015年3月期 通期振り返り

### ◆ 中期経営計画達成状況

- 国内既存事業が腰折れとなり、全社業績は低迷
  - 札幌の開発拠点を東京に統合するも、予想外の戦力低下
  - 体制の立て直し、お客様への信頼回復に時間を要す
  - 上記原因で新規顧客開拓、新案件開拓が進まず、受注減
  - 下期より新たな体制で取り組み、徐々に受注を伸ばす
  
- サービス事業・ベトナム子会社等は、目標達成
  - ほぼ計画通りの数値目標達成
  - 中計テーマである成長に向けて、予定通りの取り組み

**成長へ向けた変革の最終年度に向けて準備が整う**



# 2016年3月期の取り組み

## 【中期経営計画最終年度】

### ◆ 成長に向けた改革挑戦を継続

---

#### ➤ 中期経営計画の考え方は継続

- 外部

3つの事業領域で挑戦

- 内部

収益性と生産性向上

### ◆ 目標数値は変更

---

#### ➤ 黒字化：最終利益イーブン以上

# 2016年3月期の取り組み

## 【中期経営計画最終年度】

### ◆ 主な取り組み項目

既存事業 : 電力系通信事業者・NTTグループに加え、再度メーカー系に注力

サービス事業 : 新たにコミュニケーションプラットフォーム事業に挑戦

海外事業 : 開発力強化、アジアマーケットでの製品・サービス販売を本格的に開始

R&D : 当社の技術的強みを再構築・強化し、売上貢献

## *SIP connects the future*



**ソフトフロントはSIP技術を基に  
社会変革の牽引役となり、豊かな社会を実現します**